

令和2年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 49

千葉県立松戸国際高等学校 全日制の課程 国際教養科

1 期待する生徒像

次のすべてを満たす生徒

ア 本校国際教養科の学習活動に能動的に参加し、自立した学習者となる意欲のある生徒。

イ 本校の特別活動等に積極的に参加し、将来において国際社会の発展に寄与する人材となる意志のある生徒。

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者6名程度・評価者3名の集団面接 検査時間:1グループ15分程度

3 評価項目及び評価基準

(1)学力検査〔550点満点〕

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科(英語は得点を1.5倍した150点満点,他4教科は各100点満点)の合計550点満点で評価する。

(2)調査書 アの数値を調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 未評価の教科がある場合及び算式1によらない場合は,審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3年間で欠席が30日以上ある場合は,審議の対象とする。
ウ 行動の記録	〇が一つもない場合は,審議の対象とする。
エ 特別活動の記録,部活動の記録及び特記事項	積極的な取り組みや顕著な成果が記載されている場合は,総合的に判定する際の参考とする。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は,総合的に判定する際の参考とする。

(3)面接〔40点満点〕

3名の評価者が,次のア,イ及びウの評価項目ごとに,各評価基準に基づきa(優れている),b(標準的である),c(問題がある)の3段階で評価する。aを4点,bを2点,cを1点とし,3名の評価者の評価(各12点満点)を合計し,これをAとする。

エの評価項目については,3名の評価者が,評価基準に基づき,a(優れている),b(標準的である)の2段階で評価し,3名の評価者による,評価項目ごとの評価の組み合わせ(aaa~bbb)に基づき,得点化(aaaを4点,それ以外を1点)し,これをBとする。

AとBを合計したものを,面接の得点とする。

cが3つ以上ある場合は,審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望理由,意欲	本校志望理由,入学後の学習その他の活動に取り組む意欲が明確である。
イ 実績,資質	努力してきた経験,成果,入学後も成果を発揮する意欲,資質が明確である。
ウ 態度,姿勢	身だしなみが整っており,面接態度や作法が適切である。
エ リーダーシップ	所属する集団を望ましい方向に導く優れた人柄と力量を兼ね備えている。

4 選抜方法

(1)選抜の方法

「学力検査の成績」,「調査書の得点」,「第2日の検査(面接)の得点」をすべて合計した「総得点」により順位をつけ,選抜のための資料を慎重に審議しながら,予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査の成績	調査書の得点	第2日の検査の得点	総得点
英語1.5倍の傾斜配点	評定(算式1)	面接	
550点	(135+ $\alpha$ -m)点	40点	(725+ $\alpha$ -m)点

(算式1)  $\alpha$ : 県が定める評定合計の標準値 9.5

m: 中学校評定合計平均値

(2)その他

ア 自己申告書が提出された場合には,選抜資料に加える。ただし,提出されたことにより,不利益な取扱いはない。

イ 入学許可候補者に内定した者のうち,隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による内定者数が,細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。